

北海之光

12月号 北海道教区報

わたしがここにおります

わたしを遣わしてください

イザヤ書6章8節

発行所 北海の光社

001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12

日本聖公会北海道教区事務所

電話 011-717-8181

FAX 011-736-8377

E-mail:hikari@nssk-hokkaido.jp

http://www.nssk-hokkaido.jp

発行人 植松 誠

主に招かれている アウトサイダーとしての「女性」

司祭 ヘレン 木村 夕子

去る二月一日、日本聖公会で女性の司祭按手二〇年を記念して、東京聖アンデレ教会で礼拝が行われました。現職の主教五名を含む三九名の聖職者がプロセッションに参加し、この内女性の聖職者は韓国からのゲスト三名と、説教者のテリー・ロビンソン司祭を含めて二三名でした。女性の司祭たちが祭壇を囲んだ様子は素晴らしかったと何人もの方々が言っておられました。

現在の日本聖公会における女性の聖職者数は、退職者を含めて三四名。男性は約三二〇名ですから、やっと全体の一分です。信徒に占める女性の割合は男性よりもずっと多いのに、聖職への道になかなか進めないのは何故でしょうか。

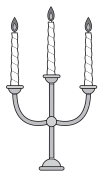
聖職按手に臨んだ際を思い起こすと、私は普通の人間

であることの殆どを捨てるような気持ちでした。自ら世界との交流の大半を遮断するイメージです。あの時は自分に一生懸命でしたが今振り返ると、私という等身大の人間の半分くらいをあきらめていたような気がします。それから一三年を経た現在、本来の私の姿にだいぶ近づいてきたような実感を持っています。最も大きな転換点は家庭を持つ身となったことでした。仕事優先・自分後回しを常としていた暮らしが一転しました。休日を自然の中で楽しむ伴侶のおかげで、メリハリのある生活になりました。そして、妻の心情や女性の健康について、子育て中の母親の大奮闘や、社会で経験する女性特有の困難、親の介護などに、より切実な共感を持つようになりました。きつと今後関わる結婚準備会は、家庭

を築き運営する事と両者の協調性について等々より話題が多岐にわたるものになりそうです。結婚後の家庭生活のサポーター的な働きも、関心を持って行きたいと考えています。そして今、心に神様からの呼びかけを聴き、神様と人々に奉仕する願いを持っている人達にアドバイスをするとしたら、自分らしさの中でこそ、神様が与えて下さる良いものを受け取り、それを分かち合うことができるという事を伝えたいです。

英国から来られたテリー・ロビンソン司祭は説教の中で、「イエス様は一貫して社会の中でアウトサイダー(部外者)とされた人々を仲間を迎え、『恐れるな』と励ましを与えて下さっているのです。」と言われました。圧倒的に少数である女性の司祭という立場の私自身を、教会のアウトサイダーとして自任した時から、聖書の福音は私をより強く励ますようになりました。「少女よ、起きなさい」と命じられた救いの言葉を聞いて、半分死んでいた私の人生をあきらめずに生きる道を選びたいと思う

ようになったのです。アウトサイダーへの福音が私に語られているという実感を重ねるほど、少数者という立場に置かれている様々な個性や特性や背景を持つ人々と共に、この福音に招かれている感動を分かち合う人生にしたいという思いを確かなものにされているように思います。今年の七月に札幌で行われた「女性」フォーラムの基調講演において、社会の中で沈黙するアイヌのルーツを持つ人々はおよそ一〇万人であると知りました。他にも性的少数者、人から理解されにくい障害や病気を持つ人々など、世の中でアウトサイダーとされてしまう存在に共感をもって関わるのが、私が持つ女性の司祭としての大切な部分であることを思い巡らしています。ある司祭の言葉を引用すると、「痛みのみを絆とする」そのような交わりが、キリストの言葉によって共に生きようとする場を身近に作り上げてみたいと考えています。



日本聖公会北海道教区第七七(定期)

教区会主教告辞



主教 ナタナエル

植 松 誠

「教区会開催にあたって」

北海道教区第七七(定期)

教区会開催にあたり、広い北海道教区の隅々からお集まりくださいました聖職議員、信徒代議員、教区役員、招待議員、またこの教区会のためにご奉仕くださいます書記局、食事のお世話にあたって

くださる婦人会の方々、教区事務所職員の皆様に深く感謝いたします。「見よ、兄弟が共に座っている。何という恵み、何という喜び」(詩編一三三・一)。北海道各地の教会から、主イエス・キリストへの信仰を生きる者たちが、今、ここに集まっていること、私たちにそれは大きな励ましと勇気を与えてくれます。主イエス・キリストが、この教区会の、また、私たちの交わりの真ん中にお立ちく

ださり、この教区会を豊かに祝福してくださいますように、そして、この教区会を通して、北海道教区の家族の絆がますます強められ、共に担う宣教への新たな力と希望が与えられますようにと祈ります。

「人事」

昨晚の教区会開会聖餐式の中で、阿部恵子、上平更両聖職候補生が執事に按手されました。これまで、二人のために祈り続けてくださった皆様に感謝いたします。また、今年四月から、札幌キリスト教会信徒であった三浦千晴さんが、聖職候補生志願者として、東京の聖公会神学院で勉学に励んでいます。このように、北海道教区に新たな聖職者や聖職を目指す方が与えられたことは大変喜ばしいこと

です。定年退職された後も、嘱託司祭として、複数の教会を掛け持ちでお働きくださっている甲斐博邦司祭、藤井八郎司祭、内海信武司祭に深く感謝いたします。また、それ以外にも、いくつもの教会で、主日礼拝の奉仕などをいただいている退職聖職の方々もいらつしゃいます。この場をお借りして感謝申し上げます。

李香男(イ・ヒャンナム)司祭は昨年教区会直後、北海道教区を離れて、米国聖公会ロス・アンジェルス教区に赴任しました。李司祭の聖職籍は、北海道教区に置いたままになっていましたが、先月、ロス・アンジェルス教区から、李司祭の聖職籍を正式に受け入れるとの通知がきたため、今年九月付で、北海道教区からロス・アンジェルス教区に、聖職籍を送りました。李司祭の北海道教区における九年半にわたるお働きを心から感謝し、ロス・アンジェルス教区でのご活躍を祈ります。石坂みゑ子司祭は、今年三月末で定年となられ、故郷の長野に引越されました。石坂司祭の北海道教区における五年間

のお働きを感謝いたします。

今日現在で、現役教役者の数は、主教一名、司祭一〇名、執事二名、計一三名となっています。この一三名と嘱託司祭三名、そして協力いただいている退職聖職数名が、北海道教区の二三教会と関連施設一〇か所での宣教・牧会にあ

たっています。現在、すべての現役司祭が、二か所から三か所の教会の牧師、管理牧師、施設の園長、チャプレンなどを兼務しています。このように少ない教役者で広大な教区を牧会・宣教するのは困難です。また、ここ数年、教役者たちの過重な責務が、教役者の心身に大きな負担を与えていることを憂慮しています。さらに心配するのは、このような状況がこれから先、決して軽減されるとは思えないことです。今後四年間に私を含めて三人が定年を迎えるように、現役教役者の数はこれからも減少傾向をたどります。それと共に、一人の現役教役者の負担はさらに増すこととなります。教役者の負担を軽減する決定的な方策は現時点ではありませんが、少なくとも

も、教役者たちが心身共に休むことができるようなご配慮を、各教会でお考えいただきますよう主教としてお願いいたします。

聖職を養成するのには最低でも五、六年はかかります。北海道教区神学生として、現在、三浦千晴さんが神学校で学んでいます。これからの毎年のように神学生や聖職への献身者が興されますように、皆様の篤い祈りをお願いするとともに、そのような人を探し、育て、聖職になるようにお勧めいただくことはこの教区の一人ひとりの急務です。

「宣教」

三年前から、教区の宣教を話し合うための教役者宣教ミーティングが四回開かれ、北海道教区としての宣教の課題を話し合い、その中から実行可能で、すぐにも取り掛かるべきものを六つ選びました。それに基づいて各教会の宣教の夢、ビジョンが話し合われ、それらが一枚のポスターとなって発表されました。講壇交換も「出会いと交わりの日」として、これまで

二回にわたって実施されました。教会の宣教の夢やビジョンがどのように実現されているか、またそれ以外の課題についても、私たちの中で常に意識化することが大事だと思います。その中で、課題を修正したり、新たな課題を見出して大胆に取り組んでいくこともあると思います。

そもそも、これら、宣教の課題の明確化と実行の取り組みの背景には、北海道教区が信徒の減少と高齢化、聖職者の不足、教会建物の老朽化、財政の逼迫など多くの課題に直面しているという現状がありました。今までもこれらの諸課題については取り組んで来たのですが、なかなか抜本的で効果のある対策はなく、その時、その時に最善と思われる仕方での困難を乗り越えてきたと思います。

二〇一二年に開かれた日本聖公会宣教協議会でも、これからの宣教・牧会への提言の中に、何か新しいことを始めるのではなく、これまでの宣教の歩みを、日々、丁寧に取り組むことの大切さが謳われています。

昨年の教区会でも申し上げましたが、宣教・牧会の最も基本的な要素は、私たち一人ひとりの信仰にあります。私たちがどのような信仰生活を送っているかが最も問われます。み言葉を読み、み言葉によつて養われ、祈りをし、主日礼拝を大事にし、自分を神と教会と人々に捧げる生活ができていくかということには宣教と直結しています。それ無しには宣教は考えられません。日々の信仰の営みを丁寧に繰り返すとは、私たちが、そのような信仰生活を送ることができるよう、教会として、グループとして、個人としていろいろ工夫をし、励まし合ったり支え合ったりすることではないでしょうか。

「稚内聖公会と厚岸聖オーガスチン教会」

そのような中で、厚岸聖オーガスチン教会と稚内聖公会のことについて少しお話しいたします。厚岸聖オーガスチン教会はここ数年の信徒の逝去や転居、転籍などで、現在のところ、現在堅信受領者がいない状況です。また、稚内聖公会も、同じように現在

堅信受領者が高齢者お一人という状況で、旭川の教会から牧師と信徒が定期的に行つて、礼拝が捧げられています。日本聖公会の法規によりますと、教会には教会委員三人以上を置くことが決められていますので、その意味では、この二教会は日本聖公会法規上は、教会ではなくなっています。この一年間、常置委員会では、毎回この件について協議してきました。稚内聖公会は、冬には極寒の豪雪地となり、教会の敷地も建物も雪に覆われてしまっています。昨年までは、道路を隔てた前にあった旅館が、教会の駐車場を使用するかわりに、教会の除雪や管理がある程度してくださっていましたが、その旅館も廃業したため、現在は、大雪の場合は業者に除雪を発注しています。建物自体が老朽化しており、また、屋根の雪が隣りの郵便局の駐車場に落ちることもあり、その対策も必要です。今後、稚内聖公会をどうするか、いろいろな可能性を現在検討しています。厚岸聖オーガスチン教会は、釧路聖パウロ教会の牧師、

信徒が時々行つて、掃除し、礼拝を捧げています。稚内も厚岸も、北海道教区にとつて、と言うよりも、日本聖公会にとつて、それぞれ最も北と最も東にある教会です。それらの地で教会が長く宣教してきたということの重さを思いながらも、これからのことも考えなくてはなりません。特に稚内聖公会の建物の現状での維持管理の困難さを考えますと、あまり時間をかけないで、次の段階に進む必要があります。常置委員会では、このような状況の中でも、単に撤退とか取り壊しということではなく、そこでどのような宣教的展望を持ち得るかということをも話し合っています。どうぞ皆様の祈りの内にお覚えいただき、ご助言をいただきますようお願いいたします。

「リベリナ教区との関係」

北海道教区は、二〇〇七年、オーストラリア聖公会ニューサウスウェールズ管区のリベリナ教区と友好教区の間係を結び、以来、主教、教役者、信徒の相互訪問などを行い、また東日本大震災の際は、リベリナ教区より支援物資、ポ

ランテニア派遣などをいただきました。しかし、北海道、リベリナ両教区の状況も変わり、ここ数年は、代祷の中で折り合う以外には、何のプログラムも持つことはありませんでした。今年に入つてリベリナ教区の窓口をしてくださっていた熊坂登司祭と協議した結果、これまでの正式な友好教区の関係は解消し、今後は今までに築き上げたいろいろなレベルでの関係を大事にしなが、個人として、また教会として、緩やかな交わりを持つことが合意されました。

「日本聖公会再編成」

これまでのリベリナ教区の聖職・信徒の皆様のご厚情に深く感謝いたします。今年六月、日本聖公会第六四(定期)総会が東京で開かれましたが、この総会期、主教会が重点的に話し合っていることがあります。それは、日本聖公会の教区再編成です。ご存知のように、日本聖公会には北海道から沖縄まで一々の教区があります。それぞれに歴史があり、伝統もあります。北海道教区だけ

を考慮しても、今から一四四年前の一八七四年(明治七年)、英国聖公会の伝道団体であるチャーチ・ミッション・ソシアテイ(CMS)からウォルター・デニング司祭が宣教師として初めて派遣され、それ以来、多くの宣教師が北海道で宣教に励み、そのおかげで、昔は北海道地方部、そして現在の北海道教区があります。CMSによる宣教、そして北海道という地にある教会として、北海道教区は独自の道を歩んできました。そして、それはどの教区にとっても同じことが言えます。

日本聖公会は世界の聖公会

の中では、教会や聖職・信徒の数から見ると最も小さな管区の一つです。はたして、日本に一一もの教区が必要かということは、どの時代にも言われてきたことで、六年ほど前にも、管区の総会で、日本聖公会の一一教区体制の問題が取り上げられたことがありましたが、それが具体的な動きにつながることはありませんでした。

しかし、ここ数年、どの教区も聖職者の数が減少し、中

にはその数が一桁になっていく教区もあります。先ほど入事のところでも申し上げましたが、北海道教区もあと数年で聖職者数は一桁になります。その傾向は一一教区すべてに見られ、どの教区でも、今後、宣教・牧会に様々な困難や支障が予想されます。

主教会として、今後一〇年、一五年先を考えると、これまでのような一一教区体制では日本聖公会は継続したいという危機感をもつて、今、すぐにでも教区の再編成に向けて舵を切るべきであると判断しています。教区の再編成については現時点ではまだ考えなくてはならないことが多くありますし、これは決して簡単に実現できることではないことも承知しています。しかし、日本聖公会の将来を考えると、早急に進めていくべき重大な課題であると思います。そして、これももちろん、主教会だけで考え、進め、決められることでもありません。今日のところは、このようなことしか申せませんが、私たちの愛する北海道教区、私たちが信仰生活

を送っている北海道教区を含めて、日本聖公会全体が、大きな転換期にきていることだけを皆様にお伝えして、皆様の祈りをお願いいたします。このような話が、何か、生き残るため、つまりサバイバルのための方策のように聞こえてしまいがちですが、私は、これが何としてでも、新しい道を神様によって示され、そこに希望を持って歩み出そうとする、リバイバルの道になるようにと願って祈っています。

「おわりに」
さる六月の日本聖公会総会で、私はまた首座主教に選ばれました。七期目となる今回の任期は、私にとって最後の任期(二年間)となります。今までと同じように、教区主教としての十分な働きができていないことを申し訳なく思っています。そのような中で、皆様が私の健康を気遣い、祈り続けてくださっていること、また私に代わって様々な働きをしてくださっていることを心より感謝いたします。そのように皆様に祈られていることと、支えられていることに

よって、私はいつも力と勇気を与えられています。

これからの一年間、北海道教区、聖職・信徒の皆様の上に主の豊かなお導きとみ守りがありますようにお祈りいたします。

常置委員会報告

臨時 一月二三日

協議事項

一、第七七(定期)教区会に於いて選出された常置委員は、大町信也司祭、広谷和文司祭、下澤昌司祭。信徒は、尾関敏明さん、沖田京子さん、大友宣さんが選出された。

一、第一回(臨時)常置委員会に於いて、常置委員長に広谷和文司祭、書記に沖田京子さんを選出した。

一、東京教区主教按手式・一月一四日(月)に司祭広谷和文常置委員長の出席を確認し承認した。

十 教区逝去教役者 記念聖餐式

一月九日(水)

午前二時三十分

於 主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

司祭 デイビッド・M・ラング

一九四六年一月一日

伝道師 千葉 今

一九四三年一月二日

伝道師 田澤 廉

一九四五年一月八日

伝道師 エディス・M・ブライアント

一九三四年一月一日

伝道師 遠藤 義三

一九三三年一月二日

伝道師 津田 喜九郎

一九四七年一月二三日

司祭 松島 寛太郎

一九六〇年一月二三日

司祭 八代 欽之允

一九四六年一月一七日

伝道師 エディス・C・ペイン

一九四七年一月一八日

伝道師 青山 操

一九〇八年一月一九日

司祭 小川 淳

一九〇七年一月二三日

司祭 松本 正雄

一九七一年一月二六日

司祭 野坂 保三

一九七五年一月二八日

司祭 佐々木 忠良

二〇〇五年一月二八日

司祭 遠藤 栄

一九四四年一月二九日

主教 フィリップ・K・ライアン

一九二八年一月三〇日

感謝 北海の光献金(敬称略)

聖職按手式報告

阿部恵子執事・上平更執事誕生

一月二二日(木)午後六時三〇分より、北海道教区主教座聖堂・札幌キリスト教会にて、聖餐式・聖職按手式が祝福のうちにささげられ、阿部恵子聖職候補生と上平更聖職候補生の両名が執事に叙任された。

この礼拝は北海道教区第七七(定期)教区会の開会聖餐式も兼ねての礼拝でもあり、ゆえに道内諸教会から、また遠く道外からの出席者も集った。二人の聖職の誕生は北海道教区に祝福を告げる出来事となった。



池田亨司祭は、その説教において「福音を告げることは、冬のさ中に春を告げること」というボンヘッファアの言葉を用いし、この聖職按手式は叙任される先生が新しくされると共に、わたしたち北海道教区も新しくされることであり、いま、冬を迎える只中で春を先取りするよろこびであると語った。

外は雪景色、聖堂内の祭色は赤。植松誠主教の手が置かれ、赤いストールをたすきがけにした阿部恵子執事と上平更執事が誕生した。

式後、ティーパーティー。植松主教の祝辞からはじまり、両名の出身教会である聖マーガレット教会を代表して小貫雅夫司祭の祝辞が続く。札幌キリスト教会婦人会が用意してくれたとびつきりの手作りロールケーキを頂きながら、祝福の時を過ぎました。この一六年間「あなたはその信を聴き午後九時過ぎ、会を閉じた。」

(北海の光編集委員会記)



「あなたはそれでもわたしを信じるか」

執事 エリザベツ 阿部恵子

一六年前、私は夫の死を機に私の体験を何かの形で、誰かのために役にたてることが出るだろうかと考え始めました。その様な時に、友人が聖書神学校へ通うことを勧めてくれ、私は少しの不安と怖れをもちつつも、半ば好奇心から通い始めました。ですが俗な言い方をすれば私はそこにはまっぴら、当初の思いを形にする為に、東京の聖公会神学院へ入学しました。

皆さんの祈りの内に私は、一月二二日に執事按手を受け聖職の一員に加えられました。この一六年間「あなたはそれでもわたしを信じるか」と一体何度聞かれたことでしょうか。自身や娘達に起



こる事態の難しさに「なぜ」と問いかけながら、その応答のいかんに関わらず、私はいつも「はい」と答えて来ました。個々人に起こる出来事は違えど、私達の傍らに主がいて下さる事を信頼し、「わたしはそれでもあなたを信じます」と言い続けて行きたいと思っています。

新執事としての思い

執事 ノア 上平 更

一月二二日教区会開会聖

餐式の中でエリザベツ阿部恵子聖職候補生と共に執事に按手されました。みなさんからの支えと励ましに改めて感謝致します。

今までの式服にストールが加えられ、襟に白いカラーが付いている様は、子どもの頃から見慣れているものでしたが、自分が身につけることになるとは、思ってもみませんでした。自分自身が願うよりも前から、祈られ、勧められてきたことが、このように自分の身に起きていることを不思議に、しかし恵みに思っています。

人々の声を聞き集め、キリストの救いを必要とする人たちの元へ、福音と分かち合われたキリストの聖体を届ける者として、これからもみなさ



んと共にキリストに仕える者となりたいたいと思います。

神学生養成委員会より

七七回定期教会会の前夕の

一月二二日、神様のお許し

が得られたエリサベツ阿部恵

子とノア上平更の両聖職候補

生の執事按手式が植松誠主教

の司式で執り行われ、当教会

では久し振りに二人の新しい

執事が誕生いたしました。

お二人にはまことにおめで

とございます。心よりお喜

びを申し上げます。教会の現

状には厳しいものがあります

が、神様のお見守りの下、聖

職・信徒の皆々様の協力によ

りますますのご活躍を期待し

ております。

聖職・信徒の皆々様にはい

つも「教会に聖職に召される

人が与えられるため」と心の

籠ったお祈りと献金をお捧

げくださっており、感謝です。

お二人の他にこれまで多くの

神学生や聖職候補生に大きな

励みとなったことと思いま

す、今後もなにとぞよろしく

お願いします。

来年三月には八角堂で恒例

の『神学生を囲む会』を開催

予定です。ゲストは現在聖公会神学院で学んでおられる札幌キリスト教会出身の三浦千晴神学生(現在、聖職候補生志願者)です。詳細は確定次第お知らせします。

神学生養成委員会 荒木道郎

北海道教会第七七(定期) 教会会報告

《概要》

今年の教会会は、常置委員

会で協議した結果、一月

二二日(木)に第一日を開

会聖餐式・聖職按手式では

じめることとなった。(右記、

記事を参照)

第二日目、二三日(金・祝

日)午前九時から、主教座聖

堂(札幌キリスト教会)にて、

飯野司祭、司式により「朝の

祈り」を共にささげ、二日目

がはじまった。

その後、一階ホールに移動

し、議長植松誠主教が、代議

員資格調査委員を指名。調査

の結果、全員が資格を有する

旨の報告を受け、教役者議員

一二名中一二名の出席、信徒

代議員二八名中二五名の出席

を確認し、開会の祈りをもつ

て議事が開始された。次に議

長は、教会会の進行に要する

各委員を指名。追加の議案と

して、常置委員会から室蘭聖

マタイ教会牧師館部分の解体

撤去に伴う「基本財産 変更

に関する件」が上程され審議することが承認された。その後、主教告辞が読み上げられた。(告辞は本号掲載参照)

午前中、各部、各会の報告

がなされ、とりわけ重要な事

柄として取り上げるならば、

稚内・厚岸の教会の問題であ

ろう。配布資料「常置委員会

における稚内聖公会・厚岸聖

オーガスチン教会に関する協

議(A4五頁)」をもとに大

町信也常置委員長から、この

一年間にわたって常置委員会

において毎回、協議してきた

事柄が丁寧に報告された。そ

して、稚内聖公会管理牧師・

広谷和文司祭と厚岸聖オーガ

スチン教会牧師・松井新世司

祭より教会および地域の現状

の報告を受けた。地域の過疎

化、信徒の減少、とりわけ稚

内聖公会の礼拝堂等建物の老

朽化、その維持管理の困難さ

が報告された。しかしながら、

最北と最東に位置する日本聖

公会の教会ゆえ、常置委員会

として現実の諸問題に対処し

つつ、これから具体的な方策

を為して行きたいとの報告が

なされた。以下、審議された議案は、すべて可決、承認された。

議案第一号 新教役者議

員、新信徒代議員歓迎に関す

る件 一部訂正、削除あり

議案第二号 逝去者記念に

関する件 一部追加あり

議案第三号 基本財産 変

更に関する件

議案第四号 二〇一七年度

教会費決算に関する件

議案第五号 二〇一九年度

教会費予算に関する件

議案第六号 二〇一七年度

北海の光会計決算に関する件

議案第七号 二〇一九年度

北海の光会計予算に関する件

午後一時五〇分より、教会

常置委員選挙が行われた。選

挙結果は以下の通り。

聖職常置委員

大町信也司祭、広谷和文司

祭、下澤昌司祭、次点 永谷

亮司祭

信徒常置委員

尾関敏明さん(帯広聖公

会)、沖田京子さん(札幌キ

リスト教会)、大友宣さん(札

幌聖ミカエル教会)、次点

矢部幸子さん(旭川聖マルコ

教会)

選挙後、動議が出され、会

計監査委員は選挙によらず、

議長植松主教の指名とする旨可決された。

教会会を閉じるにあたり、

木村淳さん(聖マーガレット

教会)が謝辞を述べられ、津

田武典さん(新札幌聖ニコラ

ス教会)と木村夕子司祭によ

り閉会の祈りがささげられ

た。主の祈りを唱え、主教の

祝福をもって第七七(定期)

教会会を閉会した。

なお、補助書記を高橋愛さ

ん(小樽聖公会)が担当。そ

して今年も、昼食の用意を聖

マーガレット教会婦人会の

方々が奉仕してくださり、お

やつ「手作りケーキ」を新

札幌聖ニコラス教会マリア会

の方々が準備してくださった。

北海道教会に更なる主の恵

みと導きを祈り、報告といた

します。

(北海の光編集委員会記)

ハラスメント防止委員会

設置一〇年を迎えて

ハラスメント防止委員長 志賀直信

第四回ハラスメント防止・

対策担当者が六月二十九日(三〇日)に東京(於日本聖公会センター)で行われ、当教区からは防止委員の糸田正博さん(苦小牧聖ルカ教会)に出席してもらいました。委員間の意識・情報の共有化をはかるために、毎年の出席は輪番制にしました。昨年は山本雅之さん(帯広聖公会)に出席していただきました。

会議のあと防止委員三名が苦小牧に集まり、糸田さんから報告を受け、事の重大さを再認識した次第です。それは、東日本大震災後の「いっしょに歩こう!プロジェクト」のボランティア中にハラスメント事件があったことです。ただ中間報告の段階ですので、内容は省かせていただきますが、最終報告書が届きましたら教区で学習会等を検討したいと考えています。

当教区ではハラスメント防

止委員会が二〇〇八年に設置

されて以来、ハラスメント事案は報告されていません。皆さまの慎み深く温かい言動に感謝します。最近は新聞、テレビ等のメディアでハラスメントに関する報道が頻繁にされていますので、社会的にハラスメントに関する意識は高くなっていると感じます。これまでの男性優位の社会構造や地位の高い人の低い人への言動が問題視され、それに対する意識改革が進行しているように思われます。

このような状況のなかにおいても、教会内では教会委員会、婦人会等で年長者(いわゆるベテラン)が若いメンバー(教会に来て間もない信徒)に対して、または若い聖職者に対して、教会の奉仕・活動において(熱心さのあまり?)、過大な要求をしてしまうこともあるかと想像します。これがハラスメントと

受け止められることもあるのかと思います。年長者は自分の経験を押しつけるのではなく、やさしく、丁寧の説明することが肝要だと思います。

私は、何よりもハラスメント防止の啓発活動を最優先すべきであり、聖職者・信徒全員に再度周知してもらおうことが大切だと思っています。各教会でハラスメント防止の揭示があるかご確認ください。

いったんハラスメントが起これば、その被害者、加害者の言い分を正確・公平に聞き取り、それをもとに調査委員会を立ち上げ、判断することが基本的なルールです。しかし、過去に聖公会で起こったハラスメント(セクシユアルハラスメント)事案はまだまだ和解・解決には至っておらず、当事者のみならず教区、管区に長期的に多大な精神的・財政的負担をかけているのが事実です。

管区事務所編集

在庫僅少

聖公会手帳 2019

- ・ 日記と年鑑を兼ねた便利性!
- ・ 教会暦・日課表を完全収録!
- ・ 教会・伝道所と関連施設が、直ぐわかる
- ・ 紙質を軽量化して使いやすさを追求!

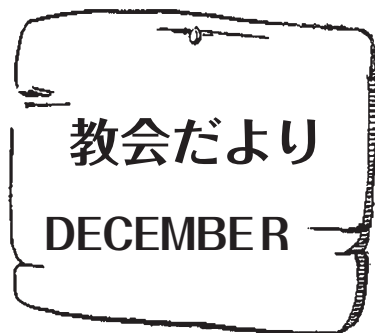
○ 大型判 2,200 円 / 通常判 1,200 円(税込)

申し込みは聖公書店 (Tel04-2900-2771)、
またはお近くの書店まで。

常にその意識をもって言動することが大切だと改めて肝に銘じています。どうぞ各教会におかれましても、ハラスメント防止を頭の隅に留めておいてください。私たちは、主にイエス・キリストに倣って、上に立つ者としてではなく、僕として常に下にあつて仕える者として信仰生活を過ごしたいものです。

「すべての人は、神の似姿として命を与えられたかけがえない存在です。その一人ひとりの尊厳は、誰からも侵害されたり傷つけられたりすることがあつてはなりません」(日本聖公会ハラスメント防止宣言、二〇一二)





▽深川聖三教会

一月七日保育園の誕生会、贈物を神妙に受け取る園児はかわいいですね。一日秋の大掃除日。一三日保育園職員会議、主任より竜巻への対応指導あり。一四日、七五三にちなみ幼児祝福式、すくすく育て神の子たちよ。一五日保育園新園舎上棟式、寺岡工務による大量餅まき大会、大歓声の波。明年二月完成予定。一八日収穫感謝祭、主教練ご夫妻をお迎えしての礼拝に一同喜びの一日を過ごす。祭壇に野山の幸が捧げられ豊饒を感謝。深川のおいしいお米百万石の実りの秋に感謝。

▽網走聖ペテロ教会

外の雪景色を見て子ども

達の「やったーサンタさんくる〜」と嬉しそうな声。当教会にもリースやクリスマスツリーが飾られました。日本の数え切れない山の松の木の本がペテロ教会に飾られました。

婦人会、ペテロの会、勉強会、主日礼拝、平穏な一ヶ月、いつもの行事を主に感謝しつつ守っています。教区会には、

和田姉が出席しました。常置委員に選出されました委員の皆様、一年間よろしくお願ひ致します。一人一人の生活の上にも豊かな導きとみ守りがありますように。アーメン

▽北見聖ヤコブ教会

逝去者記念礼拝と収穫感謝礼拝を一緒に一月四日(日)行い、奉獻された収穫物の香りの中で、先に天に召された一人一人の名を上げ祈りました。二一日(水)窓の雪囲いも致しました。教会は片流れ屋根の形なので落ちて来る水雪の量が多いためです。四つのポリタンクに灯油が満タンにされました。トイレや台

所を暖めるポータブル石油ストーブのためです。司祭は、

町内会の新年度の班長を、またすることになりました。なうちに「水落し」が始まりました。

▽紋別聖マリヤ教会

オルガニストが不在となっております。ここ数年は、インターネットからダウンロードした壮大なパイオルガン伴奏で、聖歌を歌っています。四日の主教巡回の時も、ひと月も前から練習してきた、割と難しめの聖歌で礼拝を捧げました。

小さな群れですが、聖歌で神様を賛美する喜びが、少なからず浸透しているように感じます。幼稚園の子どもたちは、

二月一五日に行われるクリスマス発表会に向けて、気持ち除々に盛り上がってきている様子です。

▽室蘭聖マタイ教会

オルガニストの白藤久枝さん、左膝痛の為歩行困難になるも、毎週の礼拝に出席。御自分の勤めを果たされる姿に頭の下がる思いをしております。一日も早い快復を祈るばかりです。

かいです。

一日、植松主教練御夫妻、来教。説教は信仰に関する話をして下さり、信仰の深さを学びました。埼玉から福島姉(平姉の長女)他教派の上野姉参加、共に聖餐に与かりました。二一日、雷と共に昨年より一〇日遅い初雪が降り、教会の水廻りが心配な季節が到来する。二二・二三日、教区総会、藤井兄が出席して下さい。二五日、吉野司祭来教、聖餐に与かる。礼拝後、藤井姉が作って下さったお汁粉をご馳走になり、心身とも温かくなり感謝です。

▽今金インマヌエル教会

一月五日、帰りそびれたジャックランタンと共に主教練ご夫妻を迎えての収穫感謝礼拝。今年もお米にじゃが芋、牛乳に直さん手作りケーキ等、沢山の収穫物に恵まれた喜びを感謝し、礼拝を守れた事を嬉しく思います。祝会でもそれぞれの家庭料理を持ち寄り、五日ご飯に鮭のシチュー、豚の角煮にコロケやおでんにサラダそしてチー

ズケーキ！どれもポリウム満点だと、今金一年目の佐久間ファミリィは、びっくり仰天！天候等何かと困難もありましたが、無事収穫を終えられた事に心より感謝。

▽旭川聖マルコ教会

一月は逝去者記念礼拝・収穫感謝礼拝・子ども祝福式の三つの礼拝で始まりました。この日の委員会でもクリスマス諸礼拝・集会の予定が決まり、遅かった雪も降って降臨節に入ろうとしています。

毎月の「山崎宅家庭集會」や婦人会お仕事会も順調で、男性群は境内地の冬の準備に汗を流しました。お休みしていた「マルコ講座」が開講され広谷司祭の熱の入った講義を受けました。「安保法制に反対する旭川宗教者の集い」では最新の沖繩辺野古の情報

をDVDで学びました。一日ツイポラ渡辺吾可さんご逝去、家族葬で送りました。保育園ではクリスマスソングが響いています。

▽岩見沢聖十字教会

一月二日、三日、札幌キ

リスト教会にて教区礼拝研修会。山本悦子姉、有本園子姉、畠山洋子姉が参加。教会の奉仕で生かす為、熱心に学ぶ。

四日、今年最後の大友正幸司祭司式による聖餐式。美奈子姉も出席し、共にパンと杯の恵みに与る。「私達は一つである」と実感した一時。ご夫妻と来年の再会を約束。

二二日、二三日、札幌キリスト教会にて教区会。代議員の有本姉が出席。教区や各教会の現状を教会委員会で報告。困難な中にも頑張っている教会がある事を知る。祈ります。

▽釧路聖パウロ教会
▽厚岸聖オースチン教会

降誕節を迎える準備に入った。教会色は緑から紫へ。釧路は当の昔に緑から茶色に変わっているのですが。降臨節前主日礼拝終了後、ツリーの飾り付けが始まった。昔礼拝堂の中にあつたよね、ということから礼拝堂の中に電飾のみのツリーを設置。ホールはというとちよつと寂しいね。鳴海姉がツリーを献品。ホー

ルにもツリーが登場。ホールもクリスマスを待つ準備が整いました。今年は残念ながら厚岸での礼拝はありません。どなたか厚岸に移住して下さる方おりませんか。降誕日には頌栄保育園の園児も教会で礼拝をおこないます。子どもたち一人一人の心に光がともってくれたらと思います。

総員礼拝二三日、イブ礼拝二四日一六時より、降誕日は一〇時から子どもたちの礼拝が始まります。また、一四日には一足早く保育園のクリスマスお祝い会があります。さあ、釧路で一緒に祝いしましょう！

▽札幌聖ミカエル教会

四日、幼児祝福式、未就学の五名の子どもたちが祝福にあずかる。一六日、月一度のロザリオの祈り会が行われ、世界のため、また身近な人びとのために祈る。一八日、中高生を中心にしたエンジェルウイングズの集まり。礼拝では牧師が「職業」について話す。働くことは自分を支え、多くの人を支えるための神さ

まの働きに加わること。ちゃんと伝わっただろうか。

教区会に於いて当教会の信徒代議員として出席した大友宣さんが常置委員に選出されました。

▽小樽聖公会

教会では、毎年一月第一主日に収穫感謝礼拝を行っており、今年は四日に、野菜や果物、お米などが持ち寄られ、礼拝堂が果物の甘い香りに満たされるなか収穫感謝礼拝をお捧げしました。

委員会では今年のクリスマス行事について協議され、降臨節第四主日はみ言葉の礼拝、二四日夕にイブ礼拝、二五日に降誕日礼拝との予定になりました。また、一月七日(金)には市原信太郎司祭(中部教区)にお越しください「クリスマス知ってるつもり!？」というテーマのトークイベントを開催することにになりました。

▽新冠聖フランシス教会

一月一日の主日礼拝は「収穫感謝礼拝」で、たくさんの地の産物が献げられました。

た。とくに、山田さん宅のお嫁さんの行子さんが丹精された野菜が献げられ、愛餐会のあとで一同感謝して頂戴しました。

二七日(火) 午前、奥田静江さん(康嘉さんのご母堂)の洗礼式が病床にて行われました。洗礼名は「ナオミ」で、教父母はお嫁さんの貞子さんと娘さんの田尾とわ子さん。和夫さん夫妻です。受洗の際、「アーメン」としっかり信仰を告白されました。ハレルヤ

▽新札幌聖ニコラス教会

一月二二日上平更先生が執事按手のお恵みに与りました。たくさんの方の祝福とお祈りに感謝します。直後の二五日の礼拝では少し緊張気味にお説教をなさいました。

今、六人の方が洗礼、按手を志し、準備を進められています。その中に二人の子どもの声が届く楽しい教会になっています。

一八日、収穫感謝礼拝、子ども祝禱式。子どもと捧げる聖餐式式文を初めて使ったの礼

拝。やさしく、心ゆったりする中で祈りの時を持ちました。

▽聖マーガレット教会

一月一八日(日) 聖霊降臨後第二六主日。前任教役者の横山明光司祭を司式・説教者を迎えての聖餐式。折りしも当日は、恒例の年に一度の北星学園女子中学・高校の聖歌隊を迎えての礼拝と重なり、特別な主日となる。

横山司祭は、この一月のはじめから約二週間にわたってネパールを訪問された経験をもとに、共に生きることの大切さを語ってください。

聖餐式において、北星学園女子聖歌隊の奉唱があり、美しく瑞々しい讚美の歌声が響く。豊かな礼拝と相成った。

▽帯広聖公会

今年は一一月に入っても暖かい日が続く、もうすっかり恒例となった「十勝の豆」の全国への発送作業が一〇日に始まり月末には終えることが出来ました。今年には特に「小豆」の価格高騰で売れ行きが懸念されましたが、そこはやはりブランドの力。ピカピカ

のお豆が各地へ旅立っていき
ました。そして熟練さんの技
で作業は格段にスピードアッ
プ、労力ご奉仕くださった皆
さん、お祈りで支えてくださ
った皆さんに感謝。一日日
逝去者記念礼拝。松井司祭の
発案で、当教会に連なる逝去
者三三九名全てのお名前が山
本雅之信徒奉事者により読み
上げられ、魂の平安をお祈り
しました。懐かしい信仰の先
達の姿が彷彿とされる思い出
深い主日となりました。

▽稚内聖公会

今年が雪が遅く例年より少
し楽かなと思っているが、年
明けあたりにどつと降るので
は?と気がかりな日々。一一
月二五日、植松主教様、三千
代夫人とともにご巡回。出席
者は本原さんお一人であった
が、心温まる礼拝をお捧げい
ただき深く感謝。翌日田上キ
ヨ子さん宅、「イエスの姉妹
会」を訪問され、日本海沿い
に帰礼される。一月二七日
旭川から「稚内クリスマス・
キャラバン」一行を迎え、一
足早いクリスマスをお祝いす

る。最果ての地に希望の光が
訪れますように!

▽苫小牧聖ルカ教会

遅れを取り戻すかのように
冬は駆け足でやってきまし
た。四日、逝去者記念礼拝、
亡き人を偲びました。委員会
ではバザー益金を礼拝堂壁面
修復他に、又八戸聖ルカ教会
との交流について話し合う。

園では一七日、三星ホールで
スマイルチャリティコンサート。
ト。献金は世界の恵まれない
子どもに。一八日、子ども祝
福礼拝。子ども二五名含む
五二名出席。

今生きているわたしたち
は、時の流れのひと時の存
在。過去の人への感謝、幼い
子への神の導きと平安を祈
る一月でした。

▽有珠聖公会

一月二五日、聖餐式。洞
爺より三松姉が、ご友人夫妻
と礼拝に出席下さいました。
礼拝の後、六回目となるクリ
スマスコンサートの打ち合
せ。今年は一月二三日(日)
の午後一時から「妙なる調べ
天より響く」と題して札幌か

ら小貫多喜子さん(聖マーガ
レット教会信徒)を迎えて実
施します。多くの方々の来場
を期待してポスター・チラシ
を信徒が手分けして町中の主
な施設に配布します。来年の
聖公会カレンダーの一月に、
有珠聖公会の冬景色の写真が
採用されています。

▽平取聖公会

平取にも一月二〇日によ
うやく初雪が降り冬が始まり
ました。胆振東部地震の余震
にまだ驚くことがあります。

一月第一週に「逝去者記
念礼拝」と「収穫感謝礼拝」
を同時に捧げ、三名の先達が
加えられたことは感謝です
た。持ち寄られたお米、果物・
野菜は今年の不順な天候の中
で実ったものでこれも感謝で
した。礼拝後の愛餐会はいつ
ものようにカボチャ団子のぜ
んざいと持ち寄りの漬けもの
を美味しくいただきました。

保育園の園児は寒くなる中
元気で過ごしています。

▽留萌キリスト教会

一月二五日、祭壇に沢山
の野菜と海の幸を持ち寄り、

収穫感謝礼拝を植松主教様夫
妻と共に捧げました。三
歳と二歳になった日諸みゆ
ちゃん、さきちゃんの愛らし
さに皆の顔がほころびます。
愛餐会では近藤泉さんが捧げ
て下さった毛ガニを食べまし
た。夢中になって味わったの
で、一瞬とても静かになりま
した。

大人の塗り絵に挑戦したさ
くら(手芸の会)では、童心
に帰って色塗りに励み、互い
の出来栄を讃え合せて心か
ら楽しむことができました。

▽札幌キリスト教会

一月一〇日、福島康高さ
んと檜山知子さんの聖婚式が
執り行われ、新生活の門出に
祝福を祈りました。一八日
キッズデー「子どもと共に捧
げる礼拝」では、窓から北大
構内の紅葉を眺め「葉っぱの
フレディー」が朗読されまし
た。礼拝後は、婦人会心づく
しの特製ランチをいただきました。

二二日、阿部恵子聖職
候補生が、上平更聖職候補生
と共に執事に按手。ストール
を身に着けた新執事の「派遣

の唱和」が力強く響きました。
婦人会が祝賀会のスイーツ
などを手作り奉仕しました。

▽函館聖ヨハネ教会

一月二一日収穫感謝礼
拝、幼児・高齢者祝福式。人
生の実りの秋に豊かな祝福が
与えられますよう祈りを捧
げ、午後には宣教部会でクリ
スマスの準備と来季の活動に
ついて話し合う。

隔水曜日の聖書輪読会の後
はクリスマスミニバザーに向
けたお仕事会。

震災で減少していた観光客
も戻り、天候の良い日には
オープンチャーターを続ける。
四月に印刷された教会案内パ
ンフレットを英語版共に追加
発注。二二日定例教区会に志
賀兄、丸山兄が出席。函館聖
ヨハネ教会修復終了の報告と
感謝を伝えました。

